

令和7年第1回定例会 所信表明

ここに住み、ここで働きたいと心から感じる、
魅力あふれる伊万里市づくりに取り組む

市議会第1回定例会（3月議会）で、深浦弘信
市長が市政運営について所信表明を行いました。
その一部を紹介します。

【市政運営の基本方針】

私は、観光客に加え、市外からの通勤者も含めた多くの交流人口を、より結びつきが強い関係人口へと深化させ、更には、定住人口へとつなげる、持続的な成長を目指します。

このため、本市に関心を抱く人たちをさらに惹きつける『魅力ある伊万里市づくり』に、本市が有する力を最大限にいかしていきます。

まず、何よりも強力に取り組むべき施策は、やはり『子育て応援』で、東山代小学校等複合施設の供用開始や東陵学園の開校のほか、学校トイレの改修や屋内遊び場の整備など、任期2期目の最後の1年を、これまで積み重ねてきた、子どもたちの学びと成長を支える取り組みが実を結ぶ、集大成の年とします。

さらに、高校生年代や結婚、出産を望む人への支援を拡充するなど、若者の未来を応援する新たな施策にも力を注いでいきます。

今年、鍋島藩窯伊万里開窯350周年という記念すべき年でもあります。近世陶磁の至宝と称された鍋島焼の伝統を守り、その価値を次世代にしっかりと受け継ぐ取り組みを加速させ、最大のターゲットである福岡都市圏への魅力発信を強化することで、本市への誘客を図り、賑わいの創出につなげます。

本市誕生から70年の歳月を経て、新たなステージを迎える本年、私は、次の10年、20年を見据え、更なる成長を遂げるための新たな魅力を生み出し、次代の伊万里市への礎を築く一年にしたいと決意を新たにしています。

魅力あるまちづくりとして、市民会館跡地の整備をはじめとする大型プロジェクトを推進するほか、地域が共助で支え合い、住み慣れた地域で誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりに取り組んでいきます。

健全な財政基盤を堅持することは、すべての施策の根幹です。そのうえで、次の世代へと力強くつなぐため、本市の活力ある将来像をしっかりと見据え、誰もが自信と誇りを持って、ここに住み、ここで働きたいと心から感じる、魅力あふれる伊万里市づくりに向け、全力を尽くす覚悟です。

【主な施策】

『いまりSTEP UPプロジェクト2025年版』では、5つの都市像の実現に向けた具体的な取り組みを進めます。

第1 『未来を託す 子育て応援都市』

子どもたちを施策の中心に据え『子育て・若者成長応援パッケージ3.0』は『支える』『感じる』『選ばれる』の3つの柱を組み合わせて展開していきます。

まず、子どもの成長と子育てを『支える』取り組みとして、順次拡充してきた子どもの医療費助成に高校生年代の通院費などを新たに追加し、すべての子どもの医療費を支援の対象とします。

中学3年生などの給食費の無償化や物価高騰の影響を受けた学校と保育施設の給食費への支援を継続するほか、令和4年に民営化したいまり保育園、牧島保育園と南波多保育園の新施設の整備を支援し、令和7年度中には、牧島保育園と南波多保育園の園舎が完成予定です。

働く子育て世代をサポートするため、病児保育を開始する事業者を支援するほか、人材派遣を活用して公立保育園の保育士を確保します。

婚活に関する会員登録料や結婚新生活へ向けた引越費用などの支援を開始するほか、不妊治療に加え、県内で初めて不妊検査への助成を行います。

次に、若者が伊万里で子育てしたいと『感じる』取り組みとして、市外への進学により一部で定員割れが続く市内高等学校の魅力を高めるため、企業をはじめとする地域全体との連携による新たな学習機会を提供します。

小学生がものづくりのまち伊万里の魅力を体感できる市内企業の工場見学を実施するほか、中学生にロボットやドローンの操作を通じてプログラミングへの関心を高める学習機会を提供します。さらに、英語学習に伸びしろがある中学生の検定受験を後押しします。



↑南波多郷学館で開かれたロボットプログラミング出前授業での1コマ

次に、子育ての場に『選ばれる』取り組みとして、(株)名村造船所の寄附を活用し、就学前子ども向けの屋内遊び場を市民センター内に整備します。また、伊万里小学校をはじめとするトイレの洋式化に取り組むほか、開校する東陵学園へのスクールバスの運行や通学路である市道提川・川西線を整備します。

東山代小学校等複合施設は、県内初となるコミュニティセンターと一体となった施設で、新たなコミュニティの拠

点として生まれ変わります。
さらに、市民会館跡地への複合施設の整備をはじめ、国見台公園の総合整備に向けた準備を進めます。

第2『未来を先取るデジタル都市』

コミュニティセンターや体育施設などの予約システムを本格的に運用開始するほか、コミュニティセンターなどでeスポーツ体験会を開催します。

子育てなどに悩みを抱える人が、気軽に相談できるよう、本市公式LINEを活用した相談体制を整備するほか、地図情報サービスサイト『いまりんマップ』の道路情報を拡充します。また、市内進出のIT企業と連携し、AIやプログラミング、デジタルアートなどに関する講座を開催します。

第3『競争に打ち勝つ産業都市』

伊万里牛の出荷頭数の維持と子牛の安定供給を図るため、出荷頭数や成績に応じて奨励金を加算するほか、伊万里梨の栽培農家や面積の減少に歯止めをかけるため、果樹の改植や機械導入などを支援します。また、イノシシなどの有害鳥獣による農作物被害

の軽減に向けた捕獲報償金の増額をはじめ、農地の大区画化により経営の安定化を図る瀬戸地区の農地の再整備を促進するほか、就農希望者の研修を受け入れるトレーナーを支援します。

今年、大川内山は佐賀藩の藩窯として開かれ350年を迎えます。鍋島焼の伝統を次の400周年へとつなぐため、トータルディレクターの招へいや情報発信などを支援するほか、伊万里・有田焼伝統産業会館の大規模改修を行います。

本市は、焼き物のまちとしての高い知名度から、食品を除く産品想起率で全国7位の位置にあります。このポテンシャルをさらにいかす必要があり、伊万里ブランドの魅力を伝える福岡ジャックなどの食を中心としたイベントを開催するほか、リニールオープンした道の駅伊万里『伊万里ふるさと村』との連携などを行います。



↑オープン初日、多くの買い物客でにぎわった『伊万里ふるさと村』

グリーンツーリズムを推進するため農家民宿の実践者を確保し、また、パブリックスペースを有する民間ホテル建筑设计画に併せて駅前ロータリーを改修するほか、市民会館跡地の複合施設や店舗集積が続く松島エリアなど、市街地の点を線としてつなげ、観光客だけでなく、市民にとっても魅力を感じるまちへと生まれ変わるよう取り組んでいきます。

第4『世界に向けた港湾都市』

ポートセールスやコンテナ助成などを行う佐賀県伊万里港振興会と強ちに連携し、コンテナ貨物の取扱量の増加と新規航路の開設を目指します。浦ノ崎地区の早期開発や官民一体で設立した協議会、ウインドパワープロジェクトによる洋上風力発電関連産業の誘致に向けた研究やフェリー・RO-RO船舶航路の活用について国や佐賀県と連携して検討を進めながら、伊万里港の将来を見据えた港湾計画の改訂を促進します。

伊万里ファミリーパークやイマリンビーチ、福田マリナーの一体的な活用を図るため、佐賀県と連携して、民間活力を取り入れた施設整備の可能性調査を実施します。

第5『SDGs推進都市』



↑伊万里港七ツ島地区

昼間の人口が夜間より多く、市外から1万人近くが通勤する本市の特徴をいかすため、引き続き、各種移住支援金の周知をはじめ、市外在住者が本市の実家へ移住する際の住宅改修などを支援するほか、移住体験ツアーの開催やオンライン移住相談窓口の開設、ニーズに合わせた就職支援などを行います。

高等教育機関が限られた本市において、大学生などを中心に賑わいを生み出し関係人口を創出するため、市内でのフィールドワークを支援するほか、地元企業と連携した特産品の開発を促進するなど、若者の視点による地域活性化を図ります。

防災体制を強化するため、伊万里・有田消防組合の通信指令センターの県内共同化に向けた取り組みを支援するほか、消防団員の装備品の拡充により活動環境を整備します。

市民図書館は、7月に開館30周年を迎えます。年間を通じた記念事業を開催するほか、環境学習の拠点となるカーボン・ニュートラル・ライブラリーとして、新たな学びの場を創出します。

脱炭素社会の実現に向け、二酸化炭素の排出の実質ゼロを目指す『ゼロカーボンシティ宣言』を行い、省エネルギーの推進として家庭用LED照明の買替を促進します。

買い物や通院支援など、共助で支えるまちづくりを積極的